

公表 保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果								
公表日			R7年 11月 20日					
事業所名			こぼんはうすさくら横浜いずみ教室			保護者等数(児童数)17名		回収数17件(割合100%)
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14	1	1	1	人数が多いときは、少し狭いかもしれません。	基準より少し広く作ってあります
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	15	1		1	人数が何人いるかわからないので、詳しくはわからない	人員配置より多い人数で対応させていただいています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15	1		1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	15		1	1	消毒や清掃を行っていただき安心できる	常に換気・消毒を心がけています。おもちゃの消毒を毎日しています。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15	1		1		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15	1		1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16	1				
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15	1		1		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16			1	声かけをしてくださっています。	今後も丁寧に向き合っていきたいと思います。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15	1		1		日替わりのプログラムをご用意しています。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	14	1	1	1	新橋町の家によく行かせていただいています。	中田教室の合同でサッカーや外出イベントも行っています。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	17					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16	1				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	15		1	1	たまに研修会等の親向けのものがあるので利用している。 とても為になっている。 先輩ママさん＆スタッフのお話会がよかったです。また、企画してほしい。	ご参加ありがとうございます。 また企画したいと思っています。 ぜひ、ご参加ください。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	14	1	1	1	連絡ノートに日々の様子を記入し、相談等できている。	気になることは、いつでもお電話ください。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14	1	1	1	幼稚園の行き渋りがあったときなど、相談させていただきました。	いつでもご相談ください。面談以外でも保護者の希望した際は、柔軟に対応いたします。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16			1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。 また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされているか。	14	1	1	1	先輩ママさん＆スタッフのお話会があった時に他の保護者の方とお話した。	ご参加いただき、ありがとうございます。 今後も交流の機会を設けていきます。

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15	1		1		
保護者への説明等	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15	1		1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	16			1		フェイスブック・さはる通信の配布
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16	1				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	1		1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16			1		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16			1		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	17				時々、不安そうな顔をしてる時がある。	職員の声掛けを統一するなど、安心して過ごせるような環境づくりを進めています。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	16	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	15	1		1	送迎があり、時間も長く、よく子どもを見てくれているのがわかるのでとても満足している。支援に満足しているが、もう少しその日の出来事を教えてほしい。	ご意見ありがとうございます。、短い文書でも、お子さんの様子が伝わるように工夫していきます。

公表日

R7年

11月

20日

事業所名

こばんはうすさくら横浜いずみ教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	13		基準より少し大きなに作ってあります	机の配置などを変えて、何をする空間なの明確に示していく
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	13		規定より多く配置しています。	今後も適切な配置を行っていきます
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12	1	視覚可や、扉を隔ててトイレと活動室を分けるなどわかりやすくしている。 階段には手すりを設置	掲示物の工夫など、その時の状況により行っていく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12	1	毎日の午前と午後でおもちゃや椅子・机の消毒。清掃を行い清潔に保つようにしている。	今後も継続していく
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11	2	相談室もしようできるようにしている。	使うタイミングなど、すり合わせを行いどの職員も対応できるようにする。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	12	1	朝礼や終礼で情報共有や情報交換を行い、改善に努めている。	定期的なミーティングを行い、全職員と振り返りと改善を行うようにする。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		アンケート回収後、結果を共有し問題点についても共有している	今後も継続していく
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		朝礼・夕礼での子ども達の様子などの話し合いを行っている	連絡ノートの有効活用して、情報共有を迅速に行っていきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	11	2	第三者の外部評価を行なっています。	職員の周知が必要。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	13		定期的に研修を行っている。	事業所内だけではなく、同法人の他事業所と合同で研修を行う。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	13		毎月プログラムカレンダーは配布	今後も継続していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12	1	朝礼、夕礼だけではなく、カンファレンス会議を設けている。	職員全員に聞き取りを行えないことがあるので、できるように努めていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12	1	カンファレンス会議を設け、職員の話を聞きながら児童発達支援計画を作成している。	今後も継続していく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13		必要に応じて職員と話し合っている。	必要に応じて職員間で話し合い、共有事項の計画案を更新して支援につなげていきたい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	13			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13		個別計画に盛り込まれている	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11	2	数人の職員で行っています。	チーム以外の他の職員が提案しやすいようにする。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13		毎日違うプログラムになっています。	今後も継続していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12	1	小さな変化に目を向けて、内容を改善するように努めている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12	1	朝礼で確認し、支援を行っている。	支援に入る前に行えない時は、随時、1人1人に声をかけている
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	2	連絡ノートを活用したり、当日行えない時は、翌日以降の朝礼を行っています。退勤時にお声がけしてる	もっと連絡ノートの活用していく。

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13		日々連絡帳や日報で記録を正確にとり、次の支援に活用している。	今後も日々の記録をおこない、支援の実施・改善につなげていきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13		適切な時期にモニタリングを行い個別支援計画を作成している。	今後も継続していく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13		管理者・児童発達支援管理責任者が行っている。	今後も継続していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	13			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13		担当者会議や担任の先生と連絡を取り合い情報の共有、相互理解に努めている。	今後も継続していく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13			
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	13		こばんはうすくらからのアドバイスをいただいている	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	10	3	同法人の介護施設や事業所との交流を行っている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13		送迎時や連絡帳、必要に応じて面談を行っている。	必要に応じて電話連絡などを行っている。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	13			
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13		契約時に行っている。	今後も不明点がないように丁寧な説明を心掛けていく
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13		面談・アセスメントにより保護者のニーズを把握している。	その他にも要望があった時には、面談など対応している
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	13		児童発達支援計画を示しながら、同意を必ず得ています。	今後も継続していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13		定期面談以外も、保護者の申し出により行う。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	13		6月に保護者会を実施。	今後も保護者様のニーズ等を確認し、検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13		管理者・児童発達支援管理責任者が対応。	保護者様からの相談に対して、職員間で話し合い、助言、支援を行っていく
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	13		フェイスブック、さほる通信の配布。	今後も継続していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13		鍵付き棚に保管	今後も継続していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13		必要に応じて、視覚支援や絵カード、マカトン等を行う。	個別の対応を行っていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	12	1	同法人との連携	

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13		定期的な訓練の実施、マニュアルも作成している。	今後も継続していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13		BCP計画を作成。訓練も実施。	今後も継続していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	13		契約時に確認。	今後も継続していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13		医師の判断に基づくようにしている。	保護者様を通して、対応の伝達をいただいている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13		安全計画を作成。訓練も実施。	今後も継続していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	13			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12	1	会議やミーティング等で再発防止策を反し合っている。	定期的に前の合った事例検討を行い、再発防止に努める。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13		虐待防止委員会と毎月の研修にとりこんでいる。	今後も継続していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	13		今のところ身体拘束するお子さんはいません。	事例をもとに、これは拘束にあたるのかなど、身体拘束になってしまう基準を確認し合ってる。